

各地のたより



木のあたたかみに触れて

〈ふれあいセンター〉

二月七日、愛媛県愛南町立緑小学校の全校児童四四名が、木工クラフトに挑戦しました。

緑小学校では、環境教育に取り組んでおり、高



のこぎりで切るよ

低学年の児童は、当センター職員が予め輪切りにしたサクラの枝を木工ボンドで貼り付け、クマのストラップなどを作りました。

高学年は、ノコギリやクラフトナイフなどの道具を使って

学年の児童は間伐体験なども行っていますが、低学年の児童にも森林や林業、木材の良さなどに触れてもらいたいと、当センターに木工教室の依頼がありました。

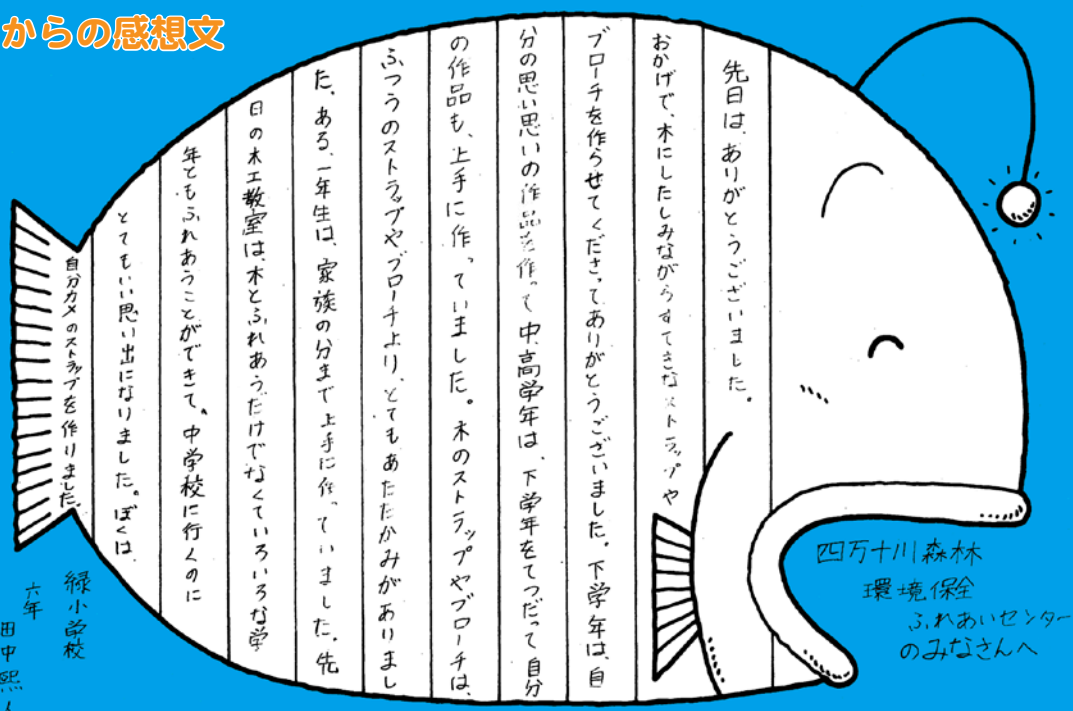
まず、ノコギリやナイフなど道具の安全な使い方を習い、製作に取りかかります。

木を切ることから始めます。使い慣れない道具に四苦八苦しながらも、カブトムシやクワガタ、クマなどができあがると、自分の作品を満足げに見入ったり、友達の作品を見て、さらに作品作りに励んでいました。

職員三名は、児童には難しいドリルでの穴開けや、堅い木の切断など、引つ切り無しに訪れる児童の要望に悪戦苦闘しながら対応していました。

後日、小学校から送っていた児童の感想文には、「市販品にはない木の暖かみがありました」とあり、森林や木材への理解の一助になったと職員一同喜んでいました。

児童からの感想文



「南郷小学校で

森林教室」

〈ふれあいセンター〉

高知県黒潮町立南郷小学校では、木や森林の役割を知り、大切にしようとする心や態度を育てることを目的に「木工クラフト」「シイタケの駒打ち」体験を行いました。

二月一六日、一年生から四年生児童二四名は、道具



おとうさんと一緒に

の安全な使い方の説明を受けて「木工クラフト」に挑戦しました。

早速、見本を参考に動物のストラップやクマの置物などを作ろうとし、カブトムシやクワガタが大人気でした。工作時間は約一時間半程度と短いながらも自作の宝ものが次々に完成すると、皆とても満足そうでした。

また、二月二六日には、参観日を兼ねて同校の三年生と四年生一二名が親子で「シイタケの駒打ち」体験を実施しました。

当センター職員からきのこの種類や毒きのこの話、椎茸栽培の仕方等を聞いた後、駒打ちに取りかかりました。

親子で直径約一〇cmのクヌギに電動ドリルで穴を開け、しいたけ菌の駒を金槌で打ち込み、約一

時間で長さ一mのほだ木三〇本ができあがりしました。このほだ木は校舎の裏の雑木林の下に伏せ、

早ければ今年の秋にはシイタケが生えて来ます。可愛いシイタケが顔を出しますが「森からの贈り物」を楽しみに待つことでしょう。

椎茸栽培をとおして、森林や木材、地域の自然や生活に関心を持ち、理解を深めてくれることを期待しています。

「ありがとう集会」に

お呼ばれ

〈ふれあいセンター〉

二月二二日、例年森林教室を実施している愛媛県松野町立松野南小学校から「ありがとう集会」

に招待され、子ども達から楽しいひととき、をプレゼントされました。

この集会は同校の児童会主催で、この一年間にお世話になった方々を学校に招待して感謝の気持ちを伝えることを目的に開催されたものです。

松野南小学校は、本年度は新入生・卒業生とも不在という全校児童数が一〇名の小規模校ですが、日頃から地域と深く交流しており、地元につながるしめ縄作りの指導や学校行事の奉仕作業に協力した老人クラブ、校外で音楽指導をされたご婦人、児童の安全を見守られた駐在さんなど、多くの方々

が招かれていました。「集会」では、児童の歌やゲームなどでもてなされるとともに、招待者全員に児童手作りの感謝状

合唱する児童



やクッキーが渡されました。

職員への感謝状には、森林教室のお礼とともに「これから森林・林業に興味を持って勉強していきます。次の森林教室を楽しみにしています」とあり、子ども達に元気づけられた一日となりました。

「わくわく発表会」

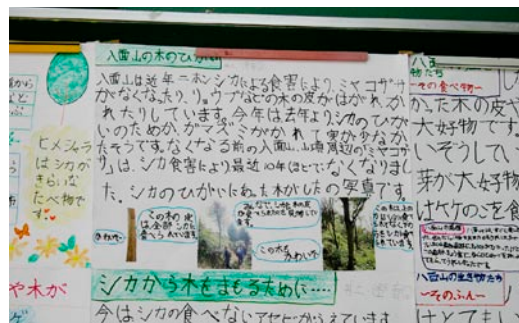
〈ふれあいセンター〉

二月二四日、愛媛県松野町立松野西小学校では授業参観に合わせた「わくわく発表会」を開催し、この一年間、四年生に六回の森林教室を行ってきた当所職員も招かれました。

「発表会」当日は陽気に恵まれ、全校児童が「もやいの広場」に集合してオーブニング。各学年の代表が発表内容をアピールした

後、各教室での発表会に移りました。

四年生の教室の壁には、グループごとの発表内容が所狭しと掲示されています。なかでも、校庭での樹木学習や、空飛ぶ種子、木工クラフト、土壌実験、八面山散策及び炭焼き体験など、森林教室で学んだこと



八面山のニホンジカ被害

をきっかけに、後日、インターネットなどで学習したことが伺えるものばかりです。参観された父兄も大いに感心されていました。

楽しい思い出となった八面山散策コーナーでは、登山途中に学んだ樹木やニホンジカの好きな植物、嫌いな植物、シカやウサギの糞などを写真付きで説明されていました。また、どのグループも要点や感想を元気に発表し、友達やご父兄の質問にもてきぱきと答えて

いました。

子ども達は、これからも森林・林業や環境問題に興味を持って成長してくれることでしょう。

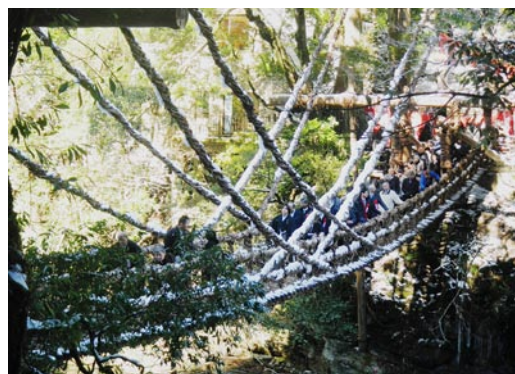


お母さんからも質問

祖谷のかずら橋、架け替え
嶺北森林管理署から資材供給

〈徳島森林管理署・
嶺北森林管理署〉

二月二〇日、徳島県三好市西祖谷山村善徳にある「祖谷のかずら橋」が三年ぶりに架け替えられ、現地



渡り初め（竣工式）

で竣工式が行われました。国指定の重要有形民俗文化財のかずら橋は、祖谷の観光スポットとして年間三〇万人の観光客が訪れ

ますが、構造材が自然素材であるため、約三年ごとに架け替えを行っています。

主な材料のシラクチカズラ（サルナシ）は、これまでは徳島森林管理署管内の国有林や周辺の民有林から採取されてきましたが、今回は初めて高知県の嶺北森

林管理署管内の小桧曽山国有林から、約六トンが供給されました。

竣工式は、雪の残るかずら橋のたもとで執り行われ、国有林の関係者は、徳島、嶺北両森林管理署の署長や森林官などが出席し、厳かな神事に続いて、テーパーカットが行われ、三世代のご家族を先頭に、渡り初めで竣工をお祝いしました。

この竣工式の様子は、テレビ放映や新聞に掲載され、シラクチカズラが嶺北森林管理署管内の国有林から供給されたことも報じられました。

徳島森林管理署では、かずら橋架け替え資材の供給に関する協定を地元と結んでシラクチカズラの培養と供給に取り組んでいます。国有林の使命としてシラクチカズラ

など、木の文化を支える資材の供給も重要であり、今後とも地元の要望に応え、地元と連携しながら管理経営を進めていきたいと考えています。

「遊々の森」で植樹体験

〈香川森林管理事務所〉

二月一六日、高松市屋島国有林にある「遊々の森」ドキドキわくわくコースにおいて、高松市立屋島東小学校四年生の児童二六名が参加して、森林教室とクヌギの植樹を行いました。

始めに、日本や世界の森林についてクイズ形式で学ぶ森林教室を行いました。児童たちは、香川県の森林率をはじめ、森林に関して事前に勉強していたようで、大きな声で解答し、職員もたじたじでした。

その後、植樹を行いました。児童たちは、足元の悪い中、鍬で一生懸命に土を掘り、木が大きく育つよう、丁寧に植えていました。植樹した後は、木杭に「大きく育て！」など、児童それぞれが思い思いに書いたメッセージボードを木のそばに立てました。すべての苗木を植え、メッセージボードを立てた後、記念標柱を設置しました。

森林教室・植樹を終えて、



クヌギを植樹

児童たちからは、「クイズが楽しかった」、「苗木を植えるのが大変だった」などの感想があり、森林・林業の重要性や苗木を植えることの大変さを実感できたようです。

四年生の森林教室は今回で終了しますが、今後も植樹した木の生長や身近な自然に関心を持ち続けてもらいたいと思います。

あしずり駅伝大会に参加して

〈四万十森林管理署〉

高知県西部の土佐清水市で、二月二日、第四回あしずり駅伝大会が実施されました。コースは、六区間二九km、参加チームは高校生チームを含め総勢三八チームで、当署からは、昨年と同じ二チー

ムが参加しました。「四万十森林管理署チーム」と「えいじ軍団チーム」です。

署チームは、黒尊森林官の河野さん、窪川森林事務所の山下さん、中津川森林官の森下さん、四国森林管理局からの助っ人、熟年ランナーの井上さんらの活躍で、二三位と好成績でした。

えいじ軍団チームは、昨年の最下位の汚名返上に燃え若手中心から中堅も交えた布陣で挑み、中でも、安芸署から助っ人で参加した馬路森林官の福山さんは、二区で区間一位の見事な走りで最下位脱出に貢献しました。両チームとも練習不足の中、最後までタスキをつなげ無事ゴールすることが出来たことで、達成感、充実感でいっぱいでした。

また、署からの、応援団はもとより、沿道の地域の方々からもたくさん声援を受け、森林管理署をPRすることが出来ました。

来年も、練習をかさね挑戦することを誓い解散しました。



あしずり駅伝を終えて



農林業インターンシップに参加した四万十高校生からの感想文

〈安芸森林管理署〉

〈高知県立四万十高等学校
二年自然環境コース〉

新玉 悟

一月二六、二七日と高知県安芸郡馬路村魚梁瀬へ農林業インターンシップに行きました。二日目は千本山登山でした。千

ヤナセスギ「橋の大杉」の大きさを疑似体験中

も入れて、一六人程がすっぽり入れる大きさでした。見た目よりも幹が大きいことが分かり、驚きました。登山道は、木で作られており、意外と楽で、時折バードコールを鳴らし

本山へ向かうバスの途中、自然の氷柱を久しぶりに見てかなり寒いところに来たのだと思いました。登山する前に、安芸森林管理署の大原さんからバードコールをもらい出しました。登山口から橋を渡ってすぐ目の前に、「橋の大杉」と呼ばれるヤナセスギがありました。そのヤナセスギはかなり大きく、このスギの周囲と同じ大きさのロープにはクラス全員と先生

も入れて、一六人程がすっぽり入れる大きさでした。見た目よりも幹が大きいことが分かり、驚きました。登山道は、木で作られており、意外と楽で、時折バードコールを鳴らし

ながら登って行きました。鳥もバードコールに答えてくれている気がしました。途中、親子杉などの有名なヤナセスギを見て、昨年、研修に行った鹿児島屋久島のスギを思い出しました。屋久島のスギはとても大きく、迫力があり、森は下草が生えているというよりはコケがたくさんあるといった印象で、千本山の方が下草が生えていて日の光が入っているように感じました。ま



鉢巻落としの杉を見上げている生徒

た、私たちの四万十高校周辺の大きな森は下草があまり生えてないところと、下草がたくさん生えているところがあるけれど、千本山は登山道以外場所には下草が生えていて、こういう森がよい森なのだと思います。長い年月をかけていい森を造るためには、継続した手入れが必要なのだと改めて感じる事ができました。しかし、千本山でもニホンジカの食害などがあると聞きました。昨年、愛媛県（宇和島市）と高知県境（四万十市）の八面山や高知県四万十町市の又風景林で研修したときにも、ニホ

た、私たちの四万十高校周辺の大きな森は下草があまり生えてないところと、下草がたくさん生えているところがあるけれど、千本山は登山道以外場所には下草が生えていて、こういう森がよい森なのだと思います。長い年月をかけていい森を造るためには、継続した手入れが必要なのだと改めて感じる事ができました。しかし、千本山でもニホンジカの食害などがあると聞きました。昨年、愛媛県（宇和島市）と高知県境（四万十市）の八面山や高知県四万十町市の又風景林で研修したときにも、ニホ

ンジカの食害やそのための対策を学びました。この森林も同じような問題があることを知り、食害への対策の重要性を感じました。鉢巻落としでは、大きなスギがたくさんあり、見上げてみると圧巻でした。登山の最終地点である展望台は魚梁瀬の村が見渡せる絶景の場所でした。この研修では、たくさんの方にお世話になりました。森林の手入れの大切さ、林業の役割を学ぶだけでなく、地域の人々の協力や人と自然とのかわり方など、たくさん学ぶことができました。研修になりました。皆様に、本当にありがとうございました。

ンジカの食害やそのための対策を学びました。この森林も同じような問題があることを知り、食害への対策の重要性を感じました。鉢巻落としでは、大きなスギがたくさんあり、見上げてみると圧巻でした。登山の最終地点である展望台は魚梁瀬の村が見渡せる絶景の場所でした。この研修では、たくさんの方にお世話になりました。森林の手入れの大切さ、林業の役割を学ぶだけでなく、地域の人々の協力や人と自然とのかわり方など、たくさん学ぶことができました。研修になりました。皆様に、本当にありがとうございました。